

「あなたの為に祈るから」

単刀直入にいうと、去年は信仰に疲れてしまった一年だと思った。こんなことを書くと、後輩たちや役員をやってくれている同期に怒られそうだが、でもこれは私の本当に純粋な思いとして読んでほしい。教会、ACF 活動、ACF の役員奉仕、学校の授業。どれもパーフェクトにこなさなければならぬという重圧から仕事だけを重視してどこか心を失ったような1年だと思う。声をあげて泣きたいような、でもその理由が自分でさえも見出せないなんとも言いようのない心持ちだった。その反発からか、2年生の終わりには「来年は ACF を少し休もう」と思うようになっていた。

2 年生も終わり春休みに入った。教会の研修旅行で韓国の教会に行った。そこには温かく迎えてくれる牧師先生と青年たちがいた。教会の青年会にも参加して彼らと語り合う時間をもった。しかし、日本のキリスト教人口、とりわけ青年クリスチアンの人口を知った彼らは、日本の青年のために祈ってくれた。大学生会が私と神学生の 2 人しかいない自分の教会で、私は目には見えない「期待」という圧力を少しずつ感じていた。しかし彼らの祈りによって一人で頑張らなくてもいいんだということを教えてもらった。

韓国から帰ってきて役員としての最後の仕事、ACF 委員会に出席した。その最中、大きな揺れを感じた。3 月 11 日だった。いつもの地震だと思い、委員会後に外に出ると街はパニック常態。その時は何が起きたのか分からなかったが、その後のニュースで私は日本史上に残るような体験をしていたことに次第に気づいた。日々増えていく死傷者・行方不明者。日に日に明らかになる被害状況。自分が何かを失ったわけではなかったけど、不安になりどうしたら良いか戸惑う日々が続いた。そこに舞い込んできたのが何通もの Facebook のメッセージだった。韓国、ポーランド、ドイツ、アメリカ、イギリス。世界中の友達が日本を心配してくれた。それには必ず、「あなたの為に祈るから。」というメッセージが添えられていた。毎日送られてくるメッセージに感謝し、感動して何度もパソコンの前で泣いた。

「あなたの為に祈るから。」祈るって簡単に言うことはできるけど、簡単にはできない。相手の心の痛みや悲しみを知って初めてできること。しかも、祈っても祈った本人が相手の問題を解決してくれるわけじゃない。神様の力がなければ、絶対に解決できない問題。この 2 つの経験を通して、「祈り」という人知を超える力が私を支えてくれていると初めて心から思うことができた。もしこれを読んでいるあなたがクリスチャンでなかったら、こう考えてほしい。「私一人は小さな存在でも、世界中で、誰かの心の中で、毎日覚えてもらっている」それだけで人間は強く生きることができるのではないか、人は自分の存在が相手に伝わったときに、本当に生きる意味・生きる喜びを見出すのではないだろうか。私たちのことを毎日見守って下さっている存在が神様。いつも神様が助けてくれていることに感謝。